

2006.6.28 《地震の早期検知器開発！》

券売機大手の「高見沢サイバネティックス」は、大きな揺れより先に到達する小さな揺れを検地し、大きな揺れの到達時間や規模を知らせる「早期検知器」を開発した。

安全対策を強化する鉄道会社や自治体などに販売する計画。一台240万円程度の価格と言う。地震の初期微動（P波）の特徴から地震の規模を表わすマグニチュードや発生場所を推定する。大きな「揺れ（S波）」が到達する時間と震度を予測して警報を出す。警報から地震到達までの時間は震源からの距離などによるが、最長で10数秒程度。その間に走行中の列車に停止指示を出すなどの対策を取れるという。

気象庁と財団法人鉄道総合技術研究所が共同特許を持つ「地震諸元推定アルゴリズム仕様」に基づく、演算処理機能を搭載。地震の発生場所を割り出す事で、従来予想技術より精度を向上させたという。現在鉄道会社や消防機関でテスト中で、今後導入に関心を持つ業者は多くなる可能性がある。（6月28日日経新聞掲載記事抜粋）